

Lockhart-Mcphersonのバドミントン スキルテストの交差妥当性について

— その予備的研究 —

藤田 明 男 (千葉敬愛短期大学)

藤田 恵 子

I 緒 言

バドミントンのスキルを測定するために、Williams, G.E.⁵⁾ は、forehand clear、backhand clear、low serve、high serve、back court drop shot、hairpin drop shot および cross court drop shot テストを考案した。その中で、backhand clear テストに最も高い信頼性係数 ($r = 0.766 \pm 0.054$) と妥当性係数 ($r = 0.549 \pm 0.088$) を得た。

Boldrick, E.L.¹⁾ は、low serve、smash、high serve、forehand lob、backhand lob および forehand drop test テストを試み、有意な信頼性および妥当性を forehand lob と backhand lob に見出している。

French, E. と Stalter, E.²⁾ らは、女子学生の初心者を被験者として、serve、clear、smash、wrist volley、diagonal foot work、shuttle foot work テストを試みた。その結果、serve、clear、wrist volley および shuttle foot work から成る四種目のバッテリーテストに最も高い妥当性係数 ($r = 0.698$) を得たことを報告している。単一のテストで最も高い妥当性は、wrist volley であった。 ($r = 0.523$)

Lockhart, A. と Mcpherson, F.A.³⁾ らは、女子学生の初心者を対象としてスキルテスト (wrist volley テスト) を考案した。その結果、再テスト法による、90の信頼性係数およびリーグ戦による成績と volley テストとに、.60の妥当性係数を得ている。

また、Miller, F.A.⁴⁾ も女子学生を用いて wrist volley テストを行ない、.94

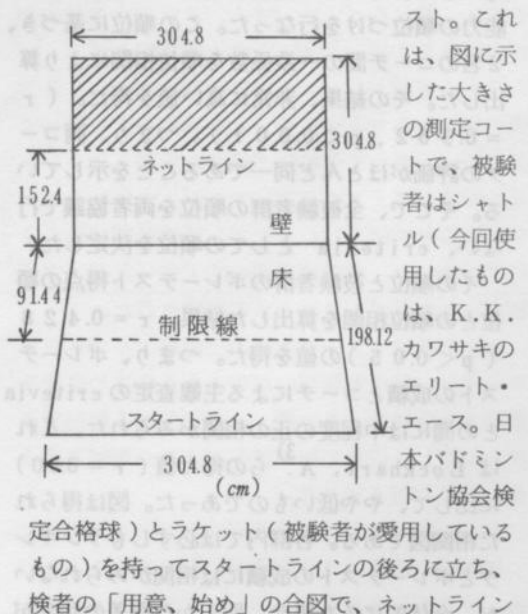
の信頼性係数と、.83の妥当性係数を報告している。

しかし、これらの諸研究は、いずれも初心者を対象としたものであり、経験者への適用は疑問である。

そこで本研究は、比較的、信頼性および妥当性が高く、かつ時間的・物質的経済性の点で実用的である Lockhart - Mcpherson のボレーテストをとりあげ、初心者を対象としたスキルテストが、経験者においても有用であるか、その交差妥当性について検討したものである。

II 研究方法

1. 被験者：バドミントン歴 2.7年 ± 1.3年、週間の練習日数 3.3日 ± 0.9日の女性 23名。
2. 測定期日：昭和54年7月6日～30日
3. 尺度および方法：Lockhart, A. と Mcpherson, F.A. の考案したボレーテ



より上方の壁に向かってサービスをし、引き続き出来るだけ多くのボレーを要求されるものである。空振りをした場合は、自分でシャトルを拾い、直ちにスタートラインに戻り再び始める。

得点は制限線を踏み越えずに打たれ、制限域(斜線部)に正しく当たった回数である。

最初の試技の前に15秒間の練習時間が与えられ、次いで各15秒間の休息をはさんで、各30秒間の3試行のボレーの合計数がテスト成績である。なおボレー回数は検者によりカウントされた。

III 結果と考察

1. 信頼性の検討

最初の測定の前2週間後に再検査を実施した結果、高い信頼性係数を得た。($r = 0.869$, $p < 0.01$) Lockhart, A. と Mcpherson, F.A.³⁾ らは、初心者を対象とした研究で同様に高い信頼性係数($r = 0.90$)を得ている。また Miller, F.A.⁴⁾ も高い信頼性係数($r = 0.94$)を得ており、この種のボレーテストは、初心者、経験者を問わず信頼性は高いものといえる。

2. 妥当性の検討

本テストの妥当性を検討するために、被験者群の専属コーチ2名が、対内、対外成績を参考にして、それぞれ被験者全員のバドミントン能力の順位づけを行なった。この順位に基づき、2名のコーチ間の一致係数を順位相関により算出した。その結果、非常に高い値を得た。($r = 0.962$, $p < 0.001$)。つまり、両コーチの評価がほとんど同一であることを示している。そこで、全被験者群の順位を両者協議で行ない、criteria としての順位を決定した。

その順位と被験者群のボレーテスト得点の順位との順位相関を算出した結果、 $r = 0.428$ ($p < 0.05$) の値を得た。つまり、ボレーテストの成績とコーチによる主観査定(criteria)の間には中程度の正の相関がみられた。これは Lockhart, A.³⁾ らの得た値($r = 0.60$)に比して、やや低いものであった。図は得られた相関図である。各群内では必ずしもランキングとボレーテストの成績には相関がみられないが、全体的にみた場合、明らかな群差の傾向が

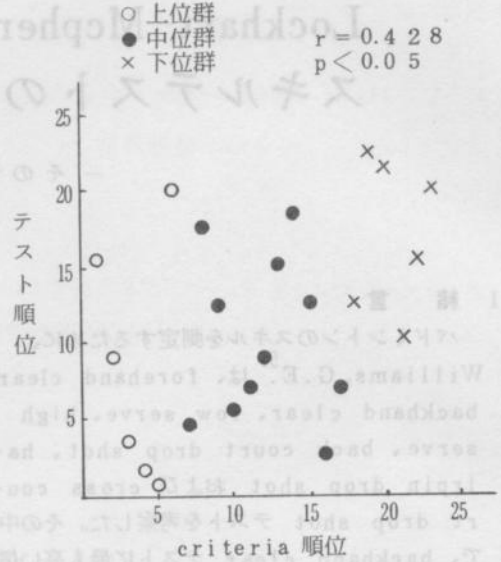


図. ボレーテストと criteria との関係

みられる。そこで、全被験者群の criteria 順位から、上位、下位約25%を抽出し、それぞれを上位群、下位群、残りを中位群とした。表1は、ボレーテスト得点の各群間の比較である。

表1 Volley Test 得点の各群間の比較

	N	X	S.D
(1) 上位群	6	63.7	14.6
(2) 中位群	11	59.3	8.3
(3) 下位群	6	46.0	10.6
(1) VS (2)		0.7403	
(1) VS (3)	t	2.1838	
(2) VS (3)		2.6743*	

* $p < 0.05$

この結果、やはり上位群ほど得点の高い傾向がみられた。中位群と下位群間には5%水準で有意な差があり、この種のボレーテストは、本被験者の範囲内で、経験者においても下級者の識別には有用であるように思われる。

今後更に異なる対象者について検討していきたい。

<参考文献>

- 1) Boldrick, E.L. : The Measurement of Fundamental Skills in Badminton. Masters Thesis, Mass; Wellesley College, 1945, (Unpublished), op. cit., Miller, F.A. p208, (1951)
- 2) French, F. & Stalter, E. : Study of Skill Test in Badminton for College Women. Res. Quart., 20, (3), 257-272, (1949)
- 3) Lockhart, A. & Mepherston, F. A. : The Development of a Tests of Badminton Playing Ability. Res. Quart., 20, (4), 402-405, (1949)
- 4) Miller, F. A. : A Badminton Wall Volley Test. Res. Quart., 22, (2), 208-213, (1951)
- 5) Williams, G. R. : A Study of Badminton Skill Test. Masters Thesis, Denton; Texas State College for Women, 1945, (Unpublished), op. cit., Miller, F. A. p208, (1951)

このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。

<前 目>

このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。

<表式説明>

このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。このテストは、バドミントン選手としての技術的な能力を測定するために設計されたものである。